



## 第1506回例会 会報

会長 市川輝雄 幹事 若生恒吉  
 クラブ奉仕 佐藤昇

出席報告:会員 89名 出席 66名

ロータリーに活力を  
 あなたの活力を  
 PUT LIFE INTO ROTARY-  
 YOUR LIFE

1989 (平成1.5.9) 天候 曇

職業奉仕 佐藤 衛 社会奉仕 迎田 稔  
 国際奉仕 松田士郎 青少年奉仕 碓氷節雄

出席率73.33% 前回出席率70.27%  
 修正出席 67名 確定出席率78.38%

## 会長報告

市川輝雄君

- ・連休前日の夕方、7号線の押切付近を通りかかった際、河川敷いっぱい、黄に彩られた菜の花畑をみる事が出来ました。春かすみの落陽のやわらかな朱の色とのコントラストが、たえようもなく「菜の花畑に入日うすれ 見渡す山の端 かすみ深し」と小学唱歌を口ずさみたくなる様なすばらしい景観でした。暦の上ではすでに立夏、夏立ちぬといっても東北はまだ深い春のまどいの中です。
  - ・ご来鶴になった鹿児島西R.Cの皆様より丁寧な御礼の手紙が来ております。また南日本新聞に掲載された鮫島志芽太氏の「南洲翁の“ねうち”実感」が同封されてきましたので、会報に転載したいと思います。
- こぼれ話ですが、昨年亡くなられた作家の椋 鳩十氏(1905～1988)が鹿児島西R.Cの会員だった事を知りました。子供達のための動物文学を数多く発表、また鹿児島県立図書館長として「母と

子の20分図書運動」を提唱され、この運動は全国に広まりました。享年83才でした。

## 幹事報告

若生恒吉君

- ・例会変更
  - ・温海R.C 5月15(月)の例会は山菜取りのため12時30分木野俣光慶寺にて点鐘、13時より木野俣にて山菜取りを行い、15時より関川(金沢屋)にて懇親会を行う。
  - ・酒田R.C 5月17日(水)の例会は市立酒田中央高校の校長先生の歓送迎会のため、18時30分点鐘  
 場所 ホテルリッチ酒田  
 登録料 5,000円
- ・平成元年度国際ロータリー第253地区インターアクト、庄内地区交換研修の案内が来ています。ホストは鶴岡西高等学校です。当クラブからは、10名位の出席要請ですので希望者は本例会終了後、申し込んで下さい。

## ロータリアン日記 ○月○日

## 専門医の空白地帯

国の特定疾患(「難病」)の一つ、多発性硬化症の患者会の総会が先日行われ出席した。結成されて18年目の総会には、関東の患者、家族を中心に50名が参加した。

多発性硬化症は、欧米に多く、日本には稀な病気である。(人口10万人に4～5人の頻度)神経繊維を覆っている髄鞘が侵され、そのため神経電流がうまく伝わらなくなって、いろいろな症状を引起す。傷害は中枢神経に多く、その箇所は多発である。原因は不明。特異的な治療法ははまだ確立されていない。再発を繰り返す

ことが特徴で、精神的、肉体的に酷な病である。

総会後の懇談会では、日本の神経医学の権威といわれている4人の医師を交えて、この病気の原因や治療に関する事、療養上の問題等が取上げられた。その中で医療の地域間格差、特に神経難病の面から見た場合どうなるかが話題になった。専門医は都市部に集中し、北海道、東北、四国の地方には専門医の空白地帯が存在する。山形県も残念ながら空白地帯に含まれる。庄内でも専門医療を受けようと思う時、新潟あるいは仙台、東京へと行かなければならないのだろうか。

嶺岸禮三

日 時 5月14(日) 9時~16時  
場 所 大山コミュニティセンター  
ホストクラブ 鶴岡西R.C

創立30周年記念式典  
実行委員長あいさつ

三井 徹 君

○新会員氏名公表

喜田川 博也さん 出羽三山神社

職業分類 宗 教

推 薦 者 秋 元 順 雄 君

異議のある方は10日以内に幹事まで書面にて御送付を御願ひ致します。

30周年記念の実行委員長としまして、皆様に一言御礼の言葉を申し述べさせていただきます。大切なお役目をおおせつかりましたが、途中病気などでいろいろご迷惑をおかけしましたが、どうか皆様の絶大なる御協力によりまして無事終了致しました。心より御礼申し上げます。

## 鹿 児 島 西 R . C よ り 御 礼 の 手 紙

鶴岡ロータリークラブ

会長 市川輝雄様

他 御一同様

さわやかな新緑の五月となりました。

過日は貴R.Cの30周年記念式典ならびに記念事業の「敬天愛人」碑の除幕式に出席させていただき、さらに前夜祭や当日の祝宴に、お招きを辱なう致しまして、意義ある時間を持つことが出来ました。

また、祝宴終了後の二日間、市川輝雄会長、三井健もと会長、富田利信様ほか関係会員皆様の御配慮と御案内により西郷南洲翁と旧荘内藩高士との道交の風韻かおる緑の記念所を見学させて頂き、参加の一同、深い感銘を抱いて帰りました。とりわけ、お疲れのところを山形空港まで送迎して下さいましたこと、また、私ども一行のために自動車と運転手の方を御提供していただいた三井徹先生の御親切など、厚い御奉仕には恐縮、感謝に堪えませんでした。

以上の結果の数々を、先日4月27日(木)の当クラブの例会で報告し、貴記念誌4月22日付の荘内日報や当日いただいた文書など回覧いたしました。弊クラブ会員一同、あらためて兄弟クラブの意義を、深くかみしめた次第であります。

4年後は、私ども鹿児島西R.Cの30周年であります。その記念の行事に何をするか、今回の貴R.Cの立派な御手本を、学ばせて頂いたことも、大きな収穫でありました。

今回の記念行事に89人の貴クラブ全会員が、「敬天愛人」とロータリーの奉仕の理念と、さらに荘内の伝説的な文化精神の一致を感得されて、協力一致して行動で示されている姿を感じ、私たちは人として(特に地方人として、またロータリアンとして)の生きかたを教えられました。

以上、言葉は足りませんが、とりあえず、私ども参加者の御礼を申し上げる次第であります。会員ならび御夫人様方ほか関係者にも、よろしく御鳳声下さい。 敬具

平成元年4月28日

鹿児島西ロータリークラブ

鮫島志芽太 中村 善治・千鶴子

中尾 洋 岩本 基

玉川 哲生 岩田 泰一

# 南洲翁の「ねうち」実感

## 鶴岡「敬天愛人」碑に思う

鮫島 志芽太

「天は人も我も同一に愛したもうゆえ、我を愛する心をもって人を愛するなり」…西郷南洲はこう語って、明治8年、旧荘内藩主の酒井忠篤に「敬天愛人」の書をおくった。

その南洲の書筆「敬天愛人」が、さる4月22日、山形県鶴岡市（旧荘内藩の城下町）に美しい大きな石工芸術作品として建立され、人びとをひきつけている。114年を経て、「道の行者」南洲の風韻は、北国に目覚めて、天の星、地の花、人の情に語りかけることとなった。

この石碑は、鶴岡ロータリークラブが創立30周年記念事業として造ったものでロータリー運動の理想である「超我の奉仕」と結びついている。もとよりそれは、南洲と旧荘内藩士の怨讐（おんしゅう）と利欲を越えた道交の歴史がなければ、生まれ得ないものであった。

私は招かれて、鹿児島西ロータリーの同人7人と「敬天愛人」碑の除幕式に出席、記念講演「敬天愛人を実践した南洲と荘内の高士たち」という拙話をした。私が庄内（鶴岡・酒田地方）を訪れるのは、昭和37年以来今度で12回目だった。

山形空港から鶴岡まで車で2時間、4月下旬の山々には雪が残り、平地には一粒1,000円の桜桃の花が白くまぶしい。暖冬で名産・庄内米の不作を、人びとは憂えていた。けれど、いつ来ても、ここ庄内の人士は、まるで私たちが西郷南洲の一行であるがごとく待遇してくれる。私はこの地を儒教文化の日本の特殊土壌地帯とよぶ。

そうした武士道的な気韻と西郷南洲の風韻（遺品）濃く残っている代表的な施設が5ヶ所ある。

一は致道博物館、二は松ヶ岡開墾場、三は荘内松柏会、四は菅実秀邸、五が南洲神社（酒田市）である。鹿児島からの見学者は、鹿児島市が隔年に送っている研修交換中学生一行の少年たちをふくめても、誰でも、最高の礼節をもって迎送される。その態度、言語、茶菓など、すべて人間もつ最も美しい「快い敬愛の処遇」である。その間の説明は、儒教の哲学的教養の香りをもつ内容であり、南洲の人格・見識の高さと、荘内と薩摩の道交の歴史を表わすものである。

庄内地方はまことに、西郷南洲の「ねうち」を、いやおうなく実感させてくれるところである。ここで感銘をうけない鹿児島人は一人もいないといつてよい。

以上の人間関係を背景にして、昭和40年5月9日、鹿児島西と鶴岡の両ロータリークラブは「兄弟盟約」を結んだ。昭和38年から語りはじめたもので、これが盟約の第1号だった。以後、同43年に大竜小学校と鶴岡市朝陽小学校、44年に鹿児島市と鶴岡市、50年に武中と鶴岡第二中、さらに谷山と朝陽の両ライオンズ、鹿児島と酒田の両ロータリーなどが兄弟盟約を結んでいる。これを見ただけでも、両地方の絆の深さがわかる。

私は今度、南洲に兄事し、「克己の賢哲」といって、薩・荘の道交の基を開いた菅実秀（中老）の旧邸見学の折、「南洲翁銅像（上野公園）の「寄付金名簿」のコピーを入手した。それによると旧荘内藩関係者350人が、4,500円余の寄付をしている。明治22年当時の4,500円は、いまいくらになるか。鹿児島では何人が何千円を寄付をした

か。おそらく記録は見つかるまい。

荘内藩は徳川親藩で、幕末、江戸市中取締を担当、江戸薩摩邸の焼き打ちをやった。これが鳥羽伏見戦の導火線だった。さらに鳥羽越戦では最後の反撃勢力として薩摩隊と戦った。復讐されると思った。意外にも寛大な処置を受け、所替（ところがえ）などもなくてすんだ。それが南洲の指示によるものだったことが、後でわかった。「道の驕逆を知って帰隊した以上、兄弟も同然、王師は尊大にならぬものだ」といって南洲は反対者を説得したという。やがて1,500キロを歩行して「道の交わり」を実現した。

明治23年、荘内藩士は『南洲翁遺訓』を出版・配布した。これらはまさに両者の敬天愛人の実践だったといえる。敬天愛人の思想は、レヴィ＝ストロースのいう「万物の互酬交換性」の原理と通じているのである。

（財団法人西郷南洲顕彰会副理事長）

（南日本新聞より転載）

## 委員会報告

### 30周年記念誌委員会

5月16日例会終了後、致道博物館にて写真を撮りますのでくれぐれも欠席のないようにお願いします。

## スマイル

笹原 信一郎 君 連休に父が入院しましたが、連休が明けに退院することが出来ました。連休は、すべてパーになりました。

高橋 良士 君 今回で五回目ですが、日本小児外科学会の評議委員に推薦

されました。

鈴木 弥一郎 君 孫娘が三月に明治薬科大学を卒業することが出来ました。又、この度四月には、薬剤師国家試験に首尾良く合格することが出来ました。

荘 司 俊 二 君 先の30周年にあたり皆様の協力の基にローカルの在り方現状について十分PRさせていただきました、深く感謝いたします。

富田 利 信 君 先日、軟式テニス大会がありました、そのテレビ放映の中で私が映りましたので。

迎田 稔 君 研修と遊びをかねてニューージーランドとオーストラリアに行ってきました。シドニーで八年前交換学生であったジム、ジェームス君と合うことになっていたのですが到着便が遅れたために残念ながら合うことが出来ませんでした。

斎藤 隆 君 先の日曜日テニスの大会があり私が審判をしていたのですが帽子をかぶっていたせいか非常に良くテレビに映っていましたので。

## ビジター

大川 俊一 君（鶴岡西R.C.）

### ※ おことわり

ゲストスピーチの記載は都合により、次号にいたしますのでご了承願います。